

HITACHI エンタープライズサーバ EP8000 シリーズ マシンコード来歴

EP8000 POWER7 720 (8202-E4D) /740 (8205-E6D) ファームウェア変更内容と来歴

	変更内容
AL770_126_126	<p>Impact: Availability / Security Severity: SPE</p> <p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投機的実行機能持つ CPU の脆弱性(CVE-2018-3639)をつく攻撃に対するセキュリティ対策を追加しました。</li> <li>投機的実行機能やアウトオブオーダー実行機能を持つ CPU の脆弱性をつく攻撃に対するセキュリティ対策を追加しました。</li> <li>VIOS 環境でファブリック障害がある Fibre チャネルに接続されたディスクからブートした時に、適切なエラーログを出力せずにブートに失敗する不具合を修正しました。</li> <li>ライブパーティションモビリティを設定している場合に、移行に失敗する不具合を修正しました。</li> <li>ライブパーティションモビリティで使用される UUID に関する機能の追加と不具合を修正しました。</li> <li>装置起動時に、PCI アダプタが動作不可となる問題を修正しました。装置の再起動により回復可能です。</li> <li>Active Memory Sharing(LPAR 間で使用するメモリを共有する機能) を設定した装置で、ダンプ採取に失敗する場合がある不具合を修正しました。</li> <li>HWMC を接続しない構成で保守員によるハードウェアダンプの採取に失敗する不具合を修正しました。</li> <li>専用プロセッサ・パーティションに設定している場合、LPAR が間欠的に無応答になる不具合を対策しました。</li> </ul>
AL770_110_032	<ul style="list-style-type: none"> <li>共用プロセッサ・パーティションを使用するシステムにおいて、仮想プロセッサの割当てが遅延し性能低下を引き起こす可能性がある不具合を修正しました。新たな共用プロセッサ・パーティションを作成しておくことで、この問題を回避できます。</li> <li>サービスプロセッサと HWMC 間を DHCP でネットワーク接続する時、エラー(SRC B1818A0F)を誤検出する不具合を修正しました。</li> <li>HWMC とサービスプロセッサ間のネットワークに障害が発生した後、装置に 2 台目の HWMC を認識させることができない不具合を修正しました。AC 給電の OFF/ON により回復可能です。</li> <li>サービスプロセッサで検出された一部のエラーログが、OS に報告されない不具合を修正しました。</li> </ul>
AL770_101_032	<p>Impact: Availability / Security Severity: SPE</p> <p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミラーリングしているメモリのデフラグメンテーションの間に行われる可能性のあるメモリの再配置が、パーティションのリポート中に、エラーコード B700F103 を記録して失敗する問題を修正しました。</li> <li>Live Partition Mobility (LPM)が停止し、パーティションの移動により、移動先サーバの時刻が不正になる問題を修正しました。この問題は、移動先サーバのハイパーバイザの時刻が、移動元サーバの時刻より遅い場合に発生します。</li> <li>HWMC とサービスプロセッサ間の通信にかかわる、複数のセキュリティ脆弱性の問題を修正しました。</li> </ul> <p>一部のシステムに影響するシステムファームウェアの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Power VM を使用しているシステムで、専用(dedicated)プロセッサと共有(shared)プロセッサのパーティションが混在し、かつそれらのパーティションが、仮想イーサネットや VIOS ホスティングで Virtual IO 接続があるとき、共有(shared)プロセッサのパーティションがパフォーマンス低下する問題を修正しました。</li> <li>拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、IPL 中にコード C7004091 を表示してハイパーバイザがハンガアップしたり、I/O ドロウの保守作業中にハンガアップしたりする問題を修正しました。</li> <li>メモリミラーリングを使用し、かつミラーリングの最適化ツールを使用している場合、logical memory block (LMB)の内容が再配置中に、メモリの回復不能なエラーが起きると、予測不能な動作をする可能性がある問題を修正しました。</li> <li>VIO Server(VIOS)を使用しているシステムで、クライアント LPAR 間で物理的な I/O リソースを共有している場合、仮想制御ブロックのページ移行中に、メモリ再配置エラーにより、エラーコード B700F103 でサーバが停止する可能性がある問題を修正しました。</li> <li>拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、I/O ドロウの電源ユニットの交換中に、誤って Voltage Regulator Module (VRM)の障害を報告し、エラーコード 10001511 および 10001521 を記録する問題を修正しました。この問題が発生すると、I/O ドロウの電源ユニットが起動しなくなります。</li> <li>複数のブートパーティションを持つディスクデバイスがあるシステムで、System Management Services (SMS)で 1 つのブートパーティションしか表示しない問題を修正しました。</li> </ul>
AL770_063_032	<p>Impact: Availability Severity: SPE</p>

	<p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ L2キャッシュエラーが同一プロセッサで2回発生すると、2回目のエラーを検知してシステムが停止する問題を修正しました。</li> <li>・ VIOS 2.2.2.0以降のシステムへパーティションの移動を行っている間、移動されるパーティションがリポートする問題を修正しました。また、これより古いVIOSバージョンのシステムへ移動する場合、手動でパーティションのリポートをする必要があり、移動のリカバリも必要になる場合があります。</li> <li>・ アンカーカード(VPDカード)のデータが破損し、エラーコード A70047xxが記録される問題を修正しました。このアンカーカード異常が発生した場合、次回のIPLが失敗する可能性があり、これを防止するために交換が必要ですが、システムファームウェアを更新しない限り、交換後のアンカーカードも再び異常となる可能性があります。</li> <li>・ アンカー(VPD)カード上のプライマリデータチップが障害となった場合、冗長化されている場合でも、エラーコード B7004715を記録してハイパーバイザがブートできない問題を修正しました。</li> <li>・ hibernate機能により休止させたパーティションを、休止させたシステムとは別のシステムからリモートリスタートさせたとき、AIXの日時設定が狂う問題を修正しました。</li> <li>・ 共有プロセッサを使用しているパーティションがあるシステムで、プロセッサがライセンスされなくなるような構成変更後、パフォーマンスが低下する問題を修正しました。</li> </ul> <p>一部のシステムに影響するシステムファームウェアの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AIXを使用しているシステムで、InfiniBand Host Channel Adapter (HCA)が障害、または機能低下している場合、AIXが強制終了する問題を修正しました。</li> <li>・ AIXを使用しているシステムで、Live Partition Mobility (LPM)を使用した、remote restart-capableを有効にしているパーティションの移動が、ハングアップする問題を修正しました。</li> <li>・ run-time abstraction services (RTAS)が、エラーのリカバリ中にイーサネットアダプタのリセットに失敗し、ネットワーク接続できない状態となる問題を修正しました。</li> <li>・ 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、ドロウの電源電圧レベルの異常をエラー報告せず、電源の冗長性が失われたことを検知できない問題を修正しました。</li> <li>・ ハイパーバイザのタイムキーサービス中に、システムが停止する可能性がある問題を修正しました。</li> <li>・ 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、I/Oドロウの電源ユニットの障害が、電源ユニットのマイクロリセットや、電源ユニットの交換で回復したにもかかわらず、障害を報告し続ける問題を修正しました。</li> </ul>
AL770_038_032	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規リリース</li> </ul>

株式会社 日立製作所 ITプラットフォーム事業本部 2020年3月

(c) Hitachi, Ltd. 2020, All rights reserved.